

鋼材とコンクリートのずれ止めの開発とその応用に関する研究

田中, 照久

<https://doi.org/10.15017/1543918>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	田 中 照 久			
論 文 名	鋼材とコンクリートのずれ止めの開発とその応用に関する研究			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	河野昭彦
	副 査	九州大学	教授	蜷川利彦
	副 査	九州大学	教授	神野達夫
	副 査	福岡大学工学部建築学科	教授	堺 純一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、建築構造物に適用するための鋼とコンクリートの新たなずれ止めとして、従来、土木構造物に適用され、建築用に小型化された孔あき鋼板ジベルを基にして、超高強度鋼に対しては高強度モルタル円柱を用いた孔あき鋼板ジベル、ならびに通常の鋼材に対してはバーリングプレスによって孔にフランジを設けたバーリングシアコネクタを開発し、それぞれ、高剛性、高耐力および高靱性のずれ止めを実現すると共にその耐力評価法を提案し、さらに合成梁の実験によってこれらの実用性を実証したもので、建築構造物における合成構造の鋼とコンクリートの一体化を飛躍的に高めており、建築構造学に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士（工学）の学位に値するものと認める。